

北海道胆振東部地震から早二ヶ月が過ぎました。震源に近い地区は甚大な被害に見舞われ、多数の方が死傷されました。心よりお悔み、お見舞い申し上げます。

あらためまして、このたびは皆様に多大な心配をお掛けいたしました。また、無事をお祈りいただきましたことに心より感謝申上げます。幸い本校は、人的、物的被害もなく、寄宿生の食事も困ることはありませんでした。

未明の地震発生に続いて大規模停電が起こりましたが、通学生は不安な中でもご家族とともに無事に過ごすことができ、また寄宿生も、舍監の誘導のもと普段の心構えや訓練をいかし、互いに声を掛け合いながら、懐中電灯を頼りに落ち着いて冷静に行動しました。市内でも場所によつては震度六弱、五強の大変強い揺れを観測し、道路の陥没や液状化が起きましたが、本校では、校舎や寄宿舎では棚から物が落ちることはほとんどなく、ここ宮の森の丘は、揺れが本当に小さかつたのだと実感しました。

生徒たちは困難な状況の中、不自由な

生活を強いられましたが、通学生は、家族の皆様と、寄宿生は舍監の指示に従い、互いに助け合い協力し合いながら、冷静に過ごしました。また、多くの皆様から飲料水や食料品、生活用品などのほか、様々な支援をいただきました。お見舞いや

励ましの言葉も多数頂戴し、生徒はもとより私たちにとりましても、皆様のお祈りとご厚意がどれだけ心の支えとなつた



発行所
札幌聖心女子学院

札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
TEL (011) 611-9231

自然の中での生き方

校長 阿部 益太郎

た」などという尊大な気持ちで、人間の都合で自然をコントロールできると思い込んでしまってはいないか。」と自問し、「忘れていたこと、自然の中で生かされている自分」に気づきました。道内各地に電気が行き渡ったのは戦後のことです。わずか六十~七十年前、私が生まれたころ、電気が使えるのは決して当たり前ではありませんでした。見上げた空の星の輝きは、消費電力が白熱電球や蛍光灯の数分の一のLEDに代わっても、さらに数倍量のLEDを使ってより明るくしようとすると間の飽くなき欲望への警鐘かもしれません。

「津波に耐えた三王岩とひとまつもなかつた防潮堤。人間の技術の粋を結集したその城壁の無残な姿を見た時、人間の問題を自分のこととして捉え学び、発信し続けてることが素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。また、先日のSGH研究発表会でも、ご来校の皆様からSDGsを含めた本校の様々な取組みを高く評価していただきました。

「グウア・カー・ナム・アド。」「いつも祈る女性」とアメリカ先住民ボトワトミ族から呼ばれた聖フイリピンは、常に苦しむ人、貧しい人に寄り添つて生き、その時その時の自分に出来ることを忍耐強く実行しました。聖女にならい、神の前に大自然の中の小さい者である自らをふりかえり、「人との共生」、「自然との共生」を目指して、今できるアクションプランに取り組む生徒たちとともに歩んでいきたいと願う毎日です。

四十時間に及ぶ停電がもたらした辺り二面の闇の中で、ふと夜空を見上げ、まばゆいばかりに光り輝く星々を見たとき、「私たちはいつの間にか『自然を征服



六月二十二日（金）に「聖心の祝日」として全校生徒がそれぞれの場所でボランティア活動を行いました。病院や老人ホーム、幼稚園など、普段はあまり関わりのない施設を訪問し、新たな発見がたくさんありました。

私はデイサービスの施設を訪れました。そこで利用者の方とお話をさせていただいた際に、いろいろな方が「家では一人で寂しいが、ここはとても楽しい」と笑顔でおっしゃってました。それが印象に残っています。それまではデイサービスというと自ら進んで行く場所ではないと思つてましたが、このボランティアを通してそのイメージは変わりました。

私たちが本ランティアに行つたのも、関わらず、たくさん学びを得ることができ、充実した一日となりました。

新た、な発見



中2
宿泊研修

仲の深まつた宿泊研修

高校野球開会式



なぜ結婚式を教会で？



私たちが本ランティアに行つたのも関わらず、たくさん学びを得ることができ、充実した一日と

二日目は、農業体験をし、袋詰めやイモの芽を取る作業等をしました。とても大変な作業でしたが、どれも貴重な経験で、改めて感謝して食べなければいけないと思いましました。

この研修にご協力くださった施設の方々、引率してくださった先生方に感謝致します。



合わせることを意識したことと、成功させることができました。あいにくその日の試合は雨で中止になつてしましましたが、良い開会式になつたと思います。機会があれば試合の応援に行ってみたいと思いました。

未来へつながるSDGs

環境問題がメインでしたが、自分の周りの環境を改善していくことで、貧困や世界の不平等など様々な問題を解決することにつながっていくのだと聞き、身近なことから少しずつ行動を始めていこうと思いました。自然環境はこれから先の世代へ受け継がれていくものなので大切にしようという意識が強くなりました。

私たち高校一年生の十八名は、七月十五日（日）、高野連の南北海道大会開会式で出場校の紹介を担当しました。雨の中、一人ひとり選手と同じ気持ちでプラカードを持つよう、心掛けました。風が強い中、なかなかカリハーサルドおりにいかず大変でしたが、とても良い思い出になりました。みなで歩く速さやプラカードの高さをそろえることは難しく、二回練習してもうまくいきませんでした。だが、当日はみなで話し合い、隣と

授の印出忠夫先生をお迎えし 中世から主にヨーロッパにかけて、結婚式をいつ・どのように理由で行つていたのかというルーツを学びました。この講義の題である「なぜ結婚式を教会で?」に対して特に印象に残つたことは、当時の結婚というのは、結婚する本人ではなく親同士の契約であったということです。普段あまり目を向けることがない身近な疑問を考えることができ興味深かつたです。

深頭研究
アイシング

聖ソフィア祭

一日間の發揮の場

七月十三日(金)、十四日(土)に聖ソフィア祭が行われました。

今年のテーマは「WINGS」で、全校一丸となつて大きな翼を形作り、聖ソフィア祭を成功させようという思いで準備に励みました。

一日目は校内祭で聖ソフィア祭委員による特別企画のゲームやステージパフォーマンス、部活動・同好会発表を楽しみました。今年の特別企画の借り人競争は、グローバルとゲームで、他学年他クラスからより早く人を借りてくるというルールで学年やクラスの垣根を越えて盛り上がりました。部活動・同好会発表ではミュージカルをテーマとしたコラス部のステージやコメディの劇を披露し体育館中を盛り上げた演劇部などどれも素晴らしい、とても引きこまれました。

二日目は一般公開日でした。高校生は各学年一つずつ模擬店を開きました。高校一年生の「Rain Café」ではタピオカドリンクなどを自分で作って売り、高校二年生はお好み焼きや牛めし、アイスなどを仕入れて飲食店を行いました。また、高



(高二 村越 真衣)

校三年生は中学三年生に協力してもらい世界の国々をテーマにした縁日を行いました。それぞれ前日まで装飾作業に追われていましたが、皆が忙しい合間に縋つて協力し成功させることができました。その他にも中高生の美術・書道作品や委員会・同好会による展示なども好評でした。

私は高校二年生になり、模擬店の参加や委員会・部活動などで活躍する友人を見る機会が増え、この学校祭は全員が協力して創るものだとうことを改めて感じたように思います。クラスや学年の違う人との関わりを持つたり、一人ひとりが自分の力を發揮する良い機会となり、皆にとって素晴らしい思い出になつたと

(中三 沢山の学び)

友愛セールの ベジカモーメント

九月二日(日)に本校で友愛セールが開催されました。今年はレベッカモーメントを記念したグローバルサービスデイの活動の一つとして行われました。世界中の聖心で奉仕活動が行われている中、札幌聖心ではこの友愛セールにおいて、お母様方の協力を得ながら、生徒一人ひとりが奉仕の心をもつて自分の仕事に励みました。また、お母様方だけではなくお父様方や卒業生などたくさんの方々が友愛セールを盛り上げてくれました。さらにオーケストラ

(木)、札幌聾学校へ行き交流会を行いました。初めに学校内を案内して頂き、誰でもわかるようチャイムの音楽と共にランプが点灯するなど工夫に驚きました。その後の交流会では聾学校の方々に教えて頂きました。私はその時初めて一つの言葉の意味だけではなく歌全体の意味で使う手話が違うことを知りました。グループごとに分かれて行つたゲームでは最初、互いに



(中三 岡 愛琴)



部やコーラス部の発表や茶道愛好会のお茶会もあり、練習の成果を披露することができました。

聖フイリピン・デュシェーンがアメリカに聖心女子学院を建てて二百年のお祝いの日である今年の友愛セールは、たくさんの方々の協力により明るく賑やかに終

中三札幌聾学校交流会

に意思疎通ができませんで経つにつれ少しづつ分かり合え、話ができたことに喜びを感じました。沢山のことを学び、有意義な時間を過ごすことができました。今回携わつてくださつた聾学校の方々、先生方に感謝申し上げます。



部やコーラス部の発表や茶道愛好会のお茶会もあり、練習の成果を披露することができました。

聖フイリピン・デュシェーンがアメリカに聖心女子学院を建てて二百年のお祝いの日である今年の友愛セールは、たくさんの方々の協力により明るく賑やかに終

ざいました。(高二 木村 果鈴)

SOFISを ふり返つて

カンボジア体験学習

韓国体験学習



私は八月一日(木)～四日(土)に不二聖心女子学院で行われたSOFISワークショップに参加しました。

今回最も印象に残っていることは、牛肉が環境破壊と関係があるということです。今回講演をしてくださった、上智大学神学部准教授の吉川まみ先生はファーストフードなどは環境のことを考え牛肉は食べないそうです。私は、環境問題の解決にはこのような身近なことから始めら

れることだと考えています。また環境問題を共有するためにSOFIS

デーを作り、活動することが決まりました。札幌の全校生徒が環境問題に対し関心を持ち、現状を知つてもらうためにも、今回の研修で大切にしていきたいです。

(高三 近藤くりあ)



フィリピン体験学習

台湾インターンシップ体験学習

私は七月二十四日(火)～八月二日(木)の十日間、フィリピン体験学習に参加しました。

この研修では、沢山のプログラムによって様々な角度からフィリピンを知ることができ、充実した毎日を送ることができました。特に私が印象に残っている体験は、聖マグダレナソフィア基金のユースの家庭を訪問したことです。家族全員が私を温かく迎えてくださりフィリピンのことがとても好きになりました。この体験学習に関わっていただいたすべての方に心から感謝致します。

(高一 加藤 木麦)

私は七月二十二日(日)～二十八日(土)まで、東京聖心主催のカンボジア体験学習に参加しました。

現地の子どもたちと交流したりアンコール遺跡を訪れたりした中で、特に印象に残っているのはキリングファイールドです。後頭部にひびの入った頭蓋骨がホテルから近い場所にあったことに衝撃を受け、虐殺の残酷さに胸が痛みました。

総選挙が近いということもあり、例年とは異なるプログラムでしたが、姉妹校の生徒とも仲良くなれた、充実した一週間でした。

(高一 寒河江千畝)

(高一 松川 莉子)

私は七月三十日(月)～八月一日(水)の三日間、富士登山に参りました。一日目は不二聖心の寄宿舎に前泊し、姉妹校の方々と交流を深め、楽しい夜を過ごすことができました。

二日目は、富士登山に参りました。また、姉妹校でも寄宿舎で盛り上がりました。一日目は不二聖心の寄宿舎に前泊し、姉妹校の方々と交流を深め、楽しい夜を過ごすことができました。また、姉妹校でも寄宿舎で盛り上がりました。

そして、二日目から富士山に登り始めました。山の上は分ごとに天気が変わり、登れば登るほど気圧が低くなるのを感じました。体調を崩す人もいる中、無事に八合目に辿り着きました。翌日は午前一時に起床し、登頂に向けて出発しました。その後、約四時間かけて全員で登頂することができました。御来光もきれいに見ることができ、大変

全員登頂! 富士登山



貴重な経験となりました。

(高三 鈴木 夢)

オーストラリア短期留学

私はオーストラリアの姉妹校に、七月二十一日(土)～八月十二日(日)の約三週間留学しました。オーストラリアではカンガルーやコアラと触れ合い、日本ではできないような貴重な体験をし、本当に自然や動物に恵まれている国だということを実感しました。出会った人たちとはとても優しく、楽しくて充実した日々を過ごすことができました。私はこの留学で英語を聞き取り、瞬時に受け答えをする難しさを改めて実感しました。もつと英語を勉強しようと思えた良いきっかけになりました。

(高三 寺下 美海)

オーストラリア短期留学

私は七月十三日(金)～八月六日(月)の約三週間シアトルの姉妹校で開催された英語キャンプに参加しました。日本人が二人という環境の中で英語だけでなくたくさんのこと学ぶことができました。

一番印象に残っているのはドラマの授業で、劇などの練習をしたことです。札幌聖心にはない授業だったのですがとても新鮮でした。

支えてくださった全ての方に感謝し、学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。

(高一 三村 祐木)

ハーフムス短期留学

私は六月二十九日(金)～七月十四日(土)まで、フランスで行われた Faces of The Heartに参加して参りました。このプログラムは、世界中の聖心の姉妹校から先生と生徒が集まり、聖心の歴史や教育などを学ぶというものです。今回は「よりよい世界のための教育」というテーマで、教育を中心に勉強をしてきました。

日本からの参加者は私一人だったので、最初は緊張していましたが、同じ聖心というスピリットを持つてあつという間に過ぎていきました。話す言葉も文化もそれぞれでしたが、その分違う文化を学ぶことができたので、本当に充実した時間を過ごすことができました。

(高三 東 由理花)

Sr.ホツフェル、総長顧問ご来校

共生していくために

九月二十日(木)に、アメリカから、シスターイギザベルとシスター・マリー・ジヤンヌ、管区顧問のシスター吹田をお招きしました。札幌聖心での学びを中学一年、高校二、三年生が発表しました。高校三年生が、「異なるバッググラウンドを持った人々と社会で共生していく上で最



全力で挑んだ 球技大会

九月二十八日(金)・二十九日(土)の二日間、球技大会が行われました。中学

大会が行われました。中学生と高校で分かれ、バレーボールと特別種目のドッヂボールの四種目で競い合いました。私のクラスは人数が多く、多くの人が二つ以上の競技を掛け持ちしていました。私はバスケットボールと卓球に出場し、いずれも三位決定戦で負けてしまつたのですが、チームメイトと最後まで諦めずに戦った経験はかけがえのない思い出です。

(高一 山本 雪乃)



ました。団結力があり、力強い先輩の背中を見習つて、来年の高校生活最後の球技大会では有終の美を飾りたいと思いました。

研修後に取り組んだアクションプランの報告をしました。また、高校二年生はSDGsについて製作した動画を発表しました。研修から発展させた学びをシスターと共に共有でき、実りのある時間となりました。

十月十一日(木)には、総長顧問のシスターイギザベルとシスター・マリー・ジヤンヌ、管区顧問のシスター吹田をお招きしました。札幌聖心での学びを中学一年、高校二、三年生が発表しました。高校三年生も大切だと思うことは何ですか」と質問したところ、「相手の言つていることをよく聞き入れ、理解し尊重することが共生していく上での一歩になる」とお答えいただきました。実際に私は何度か外国に行き、多文化共生において相手を受け入れる・受け入れもらつているということを身をもつて感じきました。今後、グローバルな社会に適応して生きていくためには、自分のことだけでなく相手のことも考え方を尊重できる人になりたいと改めて思いました。

(高三 東 由理花)